奈良県立医科大学　整形外科専門研修プログラム

目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 奈良県立医科大学整形外科専門研修後の成果
3. 奈良県立医科大学整形外科専門研修プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
    4.1 基本方針
    4.2 研修計画
        ・専門知識の習得計画
        ・専門技能の習得計画
        ・経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）
        ・プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
        ・リサーチマインドの養成計画
        ・学術活動における研修計画
        ・コアコンピテンシーの研修計画
        ・地域医療に関する研修計画
        ・サブスペシャルティ領域との連続性について

    4.3 研修およびプログラムの評価計画
        ・専攻医の評価時期と方法
        ・専門研修プログラム管理委員会の運用計画
        ・プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画
        ・専門研修プログラムの改善方法
    4.4 専攻医の就業環境の整備機能
    4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
    4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1.整形外科専門研修の理念と使命

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。

整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。

整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。

2. 奈良県立医科大学整形外科専門研修後の成果

奈良県立医科大学整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

1）患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
2）自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）。
3）診療記録の適確な記載ができること。
4）医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
5）臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
6）チーム医療の一員として行動すること
7）後輩医師に教育・指導を行うこと　。

3. 奈良県立医科大学整形外科専門研修プログラムの目標と特徴

自立したプロフェッショナルとしての整形外科医師を目指して奈良県立医科大学整形外科専門研修プログラムは到達目標を「自立したプロフェッショナルとしての整形外科医師」としています。2017 年からスタートする新専門医制度に先立ち、奈良県立医科大学整形外科では、2015 年より独自の後期研修プログラムを構築・運用してきました。その経験と実績により洗練された研修内容を提供します。

整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむかえた我国においては、

整形外科への期待はますます大きくなっています。現在、奈良県立医科大学整形外科には、脊椎、股関節、膝関節・スポーツ医学、上肢・手外科、足の外科、小児整形外科、リウマチ、再生医療、骨軟部腫瘍、リハビリテーションなどの診療・研究グループがあります。連携施設は、スポーツ医学、手外科、脊椎外科、関節外科、救急医療、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった 34 におよぶ大学、病院があり、機能的なローテーションにより、プライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。

奈良県立医科大学整形外科は、創設から 61 年が経過し、整形外科全領域にわたる研究・教育・診療体制が整備されています。大学の周囲には、日本の最先端科学技術のノウハウを有する研究機関が多数あり、それらの施設と連携して様々な分野での臨床・研究を進めています。「機能再建・再生医療の先端を行く」奈良県立医科大学整形外科は、専攻医の皆様に素晴らしい研究環境を提供し、個々の能力を最大限に引き出す研修を目指します。

4. 研修方法

参照資料

整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料（日本整形外科学会 HP）

http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html

4.1　基本方針：

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、奈良県立医科附属病院（基幹施設）および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の 12 月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第 3 者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2　研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、

高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は 1 カ月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の 10 の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテンションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3 年 9 か月間で 45 単位を修得する修練プロセスで研修します。

①専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を 6 ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年 1 回行い、評価したデータをまとめた評価表(図 1)を参照し、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

専攻医は 1 ・2 年目 4 月上旬の専門研修プログラム管理委員会主催のクルズス（2 泊 3 日合宿）に参加し、整形外科診療を行うための基本事項を学習します。

②専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し技能能習得状況を 6 ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年 1 回行い、評価したデータをまとめた評価表（図 1）を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

③経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を奈良県立医科大学付属病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。

④プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

⑤リサーチマインドの養成計画

すべての専攻医が自らの症例を用いて研究した成果を発表するカンファレンス「レジデントデイ」を年 1 回開催します。研究指導は各施設の指導医が行います。

⑥学術活動に関する具体的目標とその指導体制（専攻医 1 人あたりの学会発表、論文等）

専攻医が学会発表年 1 回以上、また論文執筆を年 1 本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年 1 回集計し、面接時に指導・助言します。

⑦コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。

奈良県立医科大学付属病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧地域医療に関する研修計画

本プログラムの研修施設群は奈良県指定医師不足地域中小病院および医師不足地域中核病院を含みます。すべての専攻医は奈良県指定医師不足地域中小病院および医師不足地域中核病院に 3 ヵ月以上勤務します。地域内での活動として、研修期間内に 1 回以上、小学校での小児運動器検診あるいはスポーツ検診に参加します。

また当教室は、大阪府・三重県・佐賀県にある連携施設とは長年にわたって人事交流があります。本プログラムとは別の地域における整形外科診療や病棟連携、病診連携を経験することを目的に、他県での研修を行います。

⑨サブスペシャルティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャルティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムの奈良県立医科大学付属病院および連携施設にはこれらサブスペシャルティ領域の研修施設が複数施設ずつ含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャルティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャルティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

4.3 研修およびプログラムの評価計画

①専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を 6 ヵ月に 1 回行い、(9 月末および 3 月末）専門研修プログラム管理委員会に提出します。

他職種も含めた奈良県立医科大学付属病院および各研修施設での研修評価（態度も含め

た総評）を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年 1 回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

奈良県立医科大学整形外科医局に専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。 年 4 回の定期委員会（6,9,12,3 月）を開催します。 12 月に専攻医 4 年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。

専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、奈良県立医科大学整形外科医局に報告します。活動報告および研修プログラムは奈良県立医科大学整形外科ホームページで公開します。

③プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 12「整形外科指導医マニュアル」（※日本整形外科学会ホームページ参照）に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年 1 回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得

のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。

②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること

③臨床医として十分な適性が備わっていること

④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。

⑤1 回以上の学会発表、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。

以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 12 月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

奈良県立医科大学附属病院では整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。奈良県の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

【奈良県立医科医大学大学週間及び月間予定表】

分野	指導医数	週間スケジュール				
		月	火	水	木	金
脊椎	2	AM　手術	AM　総回診・外来	AM　病棟業務	AM　手術	AM　手術・外来
		PM　手術	PM　カンファレンス	PM　病棟業務	PM　手術症例検討会	PM　病棟業務

股関節	3	AM　外来	AM　総回診	AM　外来	AM　病棟業務	AM　手術
		PM　病棟業務	PM　カンファレンス	PM　外来	PM　手術症例検討会	PM　手術
肩関節	2	AM　病棟業務	AM　総回診	AM　外来	AM　手術	AM　外来
		PM　病棟業務	PM　カンファレンス	PM　外来	PM　手術症例検討会	PM　外来
膝関節	3	AM　外来	AM　総回診	AM　病棟業務	AM　病棟業務	AM　手術
		PM　外来	PM　カンファレンス	PM　病棟業務	PM　手術症例検討会	PM　手術
足	2	AM　外来	AM　総回診	AM　外来	AM　手術	AM　外来
		PM　手術	PM　カンファレンス	PM　病棟業務	PM　手術症例検討会	PM　外来
手･マイクロ	5	AM　手術	AM　総回診・外来	AM　外来	AM　手術	AM　外来
		PM　手術	PM　カンファレンス	PM　超音波検査	PM　手術症例検討会	PM　病棟業務
腫瘍	2	AM　手術	AM　総回診	AM　外来	AM　手術	AM　外来
		PM　手術	PM　カンファレンス	PM　外来	PM　手術症例検討会	PM　外来
リハビリ	1	AM　外来	AM　総回診	AM　病棟業務	AM　病棟業務	AM　外来
		PM　外来	PM　カンファレンス	PM　外来	PM　手術症例検討会	PM　外来
小児	1	AM　病棟業務	AM　総回診	AM　外来	AM　手術	AM　病棟業務
		PM　病棟業務	PM　カンファレンス	PM　外来	PM　手術	PM　病棟業務
リウマチ	1	AM　病棟業務	AM　総回診・外来	AM　病棟業務	AM　外来	AM　手術
		PM　病棟業務	PM　カンファレンス	PM　病棟業務	PM　手術症例検討会	PM　手術

	奈良県立医科大学附属病院　後期研修医　月間スケジュール				
	月	火	水	木	金
第１週	PM　研修医症例検討会	AM　総回診 PM　脊椎講義	AM　小児講義	AM　マイクロ講義 PM　症例検討会	AM　症例報告会
第２週	PM　研修医症例検討会	AM　総回診 PM　手講義	AM　リハビリ講義	AM　リウマチ講義 PM　症例検討会	AM　症例報告会
第３週	PM　研修医症例検討会	AM　総回診 PM　腫瘍講義	AM　臨床研究講義	AM　手講義 PM　症例検討会	AM　症例報告会
第４週	PM　研修医症例検討会	AM　総回診 クリニカルカンファレンス PM　股関節講義	AM　基礎研究講義	AM　小児講義 PM　症例検討会	PM　症例報告会

備考　・研修医症例検討会はカンファレンスでプレゼンテーションする症例について指導医及び上級医が指導するものである

・講義は各サブスペシャリティーの指導医が各分野の最新の手術手技から臨床研究について講義を行うものである

・症例検討会は１週間の手術内容をプレゼンテーションするものである

・第４週火曜日のクリニカルカンファレンスでより深く学習した１例について学会発表形式で報告する

本プログラムの連携施設は 33 施設 （奈良県総合医療センター、奈良県西和医療センター、南奈良総合医療センター、高田市立病院、市立東大阪医療センター、大手前病院、西奈良中央病院、済生会中和病院、大和橿原病院、市立奈良病院、宇陀市立病院、医真会八尾総合病院、平成記念病院、高の原中央病院、松阪中央総合病院、岡波総合病院、吉本整形外科・外科病院、済生会御所病院、奈良県総合リハビリテーションセンター、大阪暁明館病院、田北病院、松倉病院、香芝旭ヶ丘病院、富永病院、済生会富田林病院、済生会奈良病院、国保中央病院、倉病院、高井病院、阪奈中央病院、松本病院、大倭病院、郡山青藍病院）です。それぞれの施設の研修可能分野とローテーション表と専攻医毎の年次別単位取得計画、指導医と指導分野を下表に示します。

整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資 13「整形外科専攻医研修マニュアル」（※日本整形外科学会ホームページ参照）を参照してください。

【Ⅰ．研修病院別ローテンション表】

	2017			2018				2019				2020				2021
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
専攻医1	大学	八尾								大学		市立奈良				
専攻医2	大学	市立奈良				大学		市立奈良				南奈良				
専攻医3	大学	市立奈良								大学		南奈良				
専攻医4	大学	県奈良				大学		県奈良				大和橿原				
専攻医5	大学	県奈良										宇陀市立				
専攻医6	大学	大手前								大学		八尾				
専攻医7	大学	御所				大学		御所		大学		県奈良				

【Ⅱ．診療実績一覧】

No.	施設名称	新患数（2016）	手術数(2016)								
			脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	計
0	奈良県立医科大学附属病院	2392	183	187	382	114	50	74	46	60	1096

1	奈良県総合医療センター	2689	87	89	248	142	4	96	4	12	682
2	奈良県西和医療センター	2327	1	89	102	263	8			21	484
3	奈良県総合リハビリテーションセンター	550	14	13	132	22	0	0	0	34	215
4	南奈良総合医療センター	2150	5	102	45	474	5	1		13	645
5	市立奈良病院	3542	153	213	129	518	7	26	7	31	1084
6	宇陀市立病院	3625	97	228	132	207	10	22	10	15	721
7	大和高田市立病院	1971	5	225	156	170	0	30	11	24	621
8	済生会中和病院	2762	4	131	89	276	12	25	13	26	576
9	済生会奈良病院	1206	0	39	351	55	1	203	14	7	670
10	済生会御所病院	2781	10	68	86	366	5	32	0	18	585
11	国保中央病院	1820	0	113	55	185	2	5	10	9	379
12	市立東大阪医療センター	2500	100	150	250	350	20	30	10	40	950
13	済生会富田林病院	2569	69	31	142	255	4	5	15	4	525
14	大手前病院	8000	150	50	200	300	20	50	0	5	775
15	松阪中央総合病院	1789	76	45	82	237	2	10	23	23	514
16	吉本整形外科・外科病院	3174	0	123	61	797	0	0	0	21	1002
17	岡波総合病院	1690	39	96	100	419	0	12	0	20	686
18	大和橿原病院	4644	8	53	171	320	9	29	0	23	613
19	田北病院	4158	133	461	188	444	2	53	0	90	1371

20	倉病院	5120	33	55	322	279	10	55	10	26	790
21	高の原中央病院	5300	0	32	47	577	1	4	0	14	675
22	高井病院	3018	61	432	548	887	4	76	11	25	2044
23	阪奈中央病院	978	27	33	155	207	0	99	3	13	537
24	香芝旭ヶ丘病院	3126	276	58	301	94	8	0	0	11	748
25	西奈良中央病院	3820	0	245	220	235	67	0	0	37	804
26	医真会八尾総合病院	3524	13	283	310	588	10	23	19	46	1292
27	平成記念病院	2951	51	218	33	462	5	41	7	25	842
28	松本病院	4344	3	5	14	198	0	0	0	0	220
29	大倭病院	614	0	0	176	0	0	0	0	0	176
30	郡山青藍病院	1078	171	67	90	117	0	0	0	10	455
31	松倉病院	1201	0	49	78	228	0	17	0	10	340
32	大阪暁明館病院	2986	26	74	67	245	8	5	8	20	453
33	富永病院	787	0	0	302	0	0	0	0	0	302
計		95186	1795	4057	5764	10031	274	1023	221	733	23872

【Ⅱ．指導医一覧】

No.	氏名	所属	役職	指導担当分野									
				脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児整形	腫瘍	リハビリ	地域医療
1	田中　康仁	奈良県立医科大学附属病院	教授										
2	面川　庄平	奈良県立医科大学附属病院	教授		1		1					1	
3	朴木　寛弥	奈良県立医科大学附属病院	准教授								1	1	1
4	河村　健二	奈良県立医科大学附属病院	准教授		1		1						1
5	城戸　顕	奈良県立医科大学附属病院	講師					1			1	1	
6	谷口　晃	奈良県立医科大学附属病院	講師			1		1	1				
7	小川　宗宏	奈良県立医科大学附属病院	学内講師			1			1	1			
8	重松　英樹	奈良県立医科大学附属病院	学内講師	1			1			1			
9	藤井　宏真	奈良県立医科大学附属病院	学内講師					1			1	1	
10	宗本　充	奈良県立医科大学附属病院	講師			1		1	1				
11	内原　好信	奈良県立医科大学附属病院	助教			1	1			1			
12	仲西　康顕	奈良県立医科大学附属病院	助教		1		1						1
13	石田　由佳子	奈良県立医科大学附属病院	診療助教							1		1	
14	稲垣　有佐	奈良県立医科大学附属病院	講師			1			1			1	
15	岩田　栄一朗	奈良県立医科大学附属病院	助教	1				1				1	
16	清水　隆昌	奈良県立医科大学附属病院	助教		1		1		1				
17	田中　誠人	奈良県立医科大学附属病院	助教	1				1				1	
18	原　良太	奈良県立医科大学附属病院	診療助教			1		1					1
19	前川　尚宜	奈良県立医科大学附属病院	講師		1	1	1						
20	杉本　和也	奈良県総合医療センター	副院長・整形外科部長			1		1	1				
21	小泉　宗久	奈良県総合医療センター	脊椎外科部長	1			1					1	
22	磯本　慎二	奈良県総合医療センター	整形外科副部長			1	1		1				
23	加藤　宜伸	奈良県総合医療センター	脊椎外科医長	1			1						1
24	川手　健次	奈良県西和医療センター	副院長			1		1		1			
25	寺西　朋裕	奈良県西和医療センター	部長			1						1	
26	武内　亜希子	奈良県西和医療センター	医長		1		1						1
27	小杉　真一	奈良県西和医療センター	医長			1		1	1				
28	宮内　義純	奈良県総合リハビリテーションセンター	院長								1		
29	桝田　義英	奈良県総合リハビリテーションセンター	副院長			1							
30	林　雅弘	奈良県総合リハビリテーションセンター	部長	1						1			
31	大島　学	奈良県総合リハビリテーションセンター	医員			1							

32	小畠　康宣	南奈良総合医療センター	副院長		1			1				1	
33	門野　邦彦	南奈良総合医療センター	部長			1				1			1
34	中野　健一	南奈良総合医療センター	医長		1	1	1						
35	矢島　弘嗣	市立奈良病院	院長		1		1	1		1			1
36	山本　聡	市立奈良病院	副院長	1				1					
37	村田　景一	市立奈良病院	センター長		1		1		1				
38	上松　耕太	市立奈良病院	センター長			1			1			1	
39	藤間　保晶	市立奈良病院	医長			1			1			1	
40	河原　郁生	市立奈良病院	医長			1							
41	鍛冶　大祐	市立奈良病院	医長		1		1						
42	仲川　善之	宇陀市立病院	院長		1			1					1
43	竹嶋　俊近	宇陀市立病院	部長	1		1						1	
44	水掫　貴満	宇陀市立病院	部長		1		1		1				
45	奥本　洋樹	宇陀市立病院	医長				1					1	1
46	森下　亨	大和高田市立	副院長				1				1	1	
47	原納　明博	大和高田市立	部長		1	1			1				
48	二階堂　亮平	大和高田市立	医長		1		1		1				
49	吉井　　尚	済生会中和病院	副院長		1			1					1
50	額田　昌門	済生会中和病院	整形外科部長・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ部長	1					1			1	
51	大田　大良	済生会中和病院	整形外科医長		1	1	1						
52	岡橋孝治郎	済生会奈良病院	部長			1	1		1			1	
53	松井　智裕	済生会奈良病院	医長			1			1				1
54	中山　正一郎	済生会御所病院	病院長						1			1	1
55	花房　寛典	済生会御所病院	整形外科部長		1	1	1						
56	古田　和彦	国保中央病院	主任部長		1		1						
57	片山　健	国保中央病院	部長		1		1						
58	佐本　憲宏	市立東大阪医療センター	副院長			1				1		1	
59	斉藤　昌彦	市立東大阪医療センター	参事部長			1						1	
60	松森　裕昭	市立東大阪医療センター	部長	1									1
61	山岡　伸行	済生会富田林病院	副院長		1			1	1				
62	荒木　正史	済生会富田林病院	部長	1			1						1
63	野々下　博	済生会富田林病院	副部長	1			1					1	
64	北野　修二	済生会富田林病院	医長			1	1					1	
65	花岡　義文	済生会富田林病院	医長			1	1	1					

66	中島　弘司	大手前病院	整形外科部長	1				1				1	
67	林　宏治	大手前病院	リハビリテーション科部長			1			1			1	
68	松田　剛典	大手前病院	整形外科医長			1	1					1	
69	原田　明久	大手前病院	整形外科医員			1	1						1
70	荻田　恭也	松阪中央総合病院	部長			1	1			1			
71	飯田　仁	松阪中央総合病院	医長	1			1						1
72	佐藤　誠久	松阪中央総合病院	医長	1		1						1	
73	吉本　雅俊	吉本整形外科・外科病院	院長		1	1	1						
74	横井　一之	岡波総合病院	部長				1			1		1	
75	衣川　和良	岡波総合病院	医長		1	1							1
76	奥田　亮宏	大和橿原病院	院長			1	1	1					
77	市居　幸彦	大和橿原病院	部長										1
78	平岡　修治	大和橿原病院	部長			1			1			1	
79	城崎　和久	大和橿原病院	医長		1			1				1	
80	松村　憲晃	大和橿原病院	医長										1
81	田北　武彦	田北病院	理事長		1				1				1
82	廣藤　榮一	田北病院	病院長	1					1	1			
83	石崎　嘉孝	田北病院	副院長	1					1			1	
84	大庭　真央	田北病院	脊椎関節外科部長	1					1			1	
85	中村　敏夫巳	田北病院	整形外科部長		1								
86	中西　昭登	田北病院	手の外科・外傷部長		1	1						1	
87	西尾　正彦	田北病院	医師	1		1				1			
88	倉　一彦	倉病院	院長			1						1	1
89	三浦　修一	倉病院	副院長			1	1		1				
90	中村　宇一	倉病院	部長			1	1		1				
91	倉　知彦	倉病院	医師	1			1						
92	門田　哲也	高の原中央病院	部長			1						1	1
93	殿山　浩平	高の原中央病院	副部長			1	1	1					
94	石本　佳之	高の原中央病院	医長			1	1						
95	大川　隆太郎	高の原中央病院	医長				1						
96	賀代　篤二	高井病院	医長	1				1					
97	岩見　豊仁	高井病院	医長				1	1					
98	出端　祥成	高井病院	医長				1						
99	高井　哲郎	高井病院	副院長	1				1					
100	大村　哲司	阪奈中央病院	副院長			1			1	1			
101	河口　泰之	阪奈中央病院	関節鏡センター長			1			1				1
102	飯田　昭夫	阪奈中央病院	整形外科部長		1		1						1

103	植田　百合人	香芝旭ヶ丘病院	副院長	1						1			
104	藤井　唯誌	香芝旭ヶ丘病院	部長			1							1
105	北川　洋	香芝旭ヶ丘病院	院長			1							1
106	登　希星	香芝旭ヶ丘病院	医長	1	1	1							
107	高倉　義典	西奈良中央病院	顧問			1		1					1
108	島屋　正孝	西奈良中央病院	リウマチ科部長			1		1					1
109	小野　浩史	西奈良中央病院	部長		1		1	1					
110	米井　辰也	西奈良中央病院	リハビリテーション科部長			1		1				1	
111	橋内　智尚	西奈良中央病院	医師		1		1		1				
112	勝井　龍平	西奈良中央病院	医師			1	1		1				
113	伊東　勝也	医真会八尾総合病院	部長			1	1					1	
114	奥田　真義	医真会八尾総合病院	医長			1	1		1				
115	藤谷　良太郎	医真会八尾総合病院	医長		1			1					1
116	土肥　義浩	医真会八尾総合病院	医員		1				1			1	
117	冨田　恭治	平成記念病院	院長		1							1	1
118	定　直行	平成記念病院	副院長	1			1						
119	竹口　尚樹	平成記念病院	部長			1	1		1				
120	玉井　克弥	平成記念病院	医長			1		1					
121	鶴薗　雅史	松本病院	部長			1	1						1
122	吉川　隆章	郡山青藍病院	部長	1		1		1					
123	松倉　光晴	松倉病院	院長		1							1	1
124	東山　一郎	松倉病院	副院長			1	1		1				
125	吉田 淳	大阪暁明館病院	整形外科部長		1	1	1						
126	山藤　滋	大阪暁明館病院	整形外科医長		1		1	1					
127	千　泰規	大阪暁明館病院	リハビリテーション科部長									1	1
128	梅垣　修三	大倭病院	顧問					1					
129	大根田　豊	大倭病院	部長			1						1	
130	竹村　和生	富永病院	医師			1		1				1	

6. 専門研修プログラムを支える体制

①専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である奈良県立医科大学附属病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために奈良県立医科大学付属病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。本研修プログラム群には、1 名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置き、また、このプログラムが 20 名以上の専攻医を有することから副プログラム統括責任者を 1 名置き、副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。

② 基幹施設の役割

基幹施設である奈良県立医科大学附属病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。 奈良県立医科大学付属病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携 35 施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を 1 回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を 5 年に 1 回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ プログラム管理委員会の役割と権限

1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。
3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。
4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する

当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。

5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。

6) 奈良県立医科大学付属病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。奈良県立医科大学付属病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間，業績，研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

1)整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医

2)医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

1）専門研修基幹施設である奈良県立医科大学部附属病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。

2）専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥労働環境、労働安全、勤務条件

奈良県立医科大学付属病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
・施設の給与体系を明示します。

7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】各年次 9 名　合計　36 名

各施設の専攻医最大受入可能数は指導医数及び各施設の新患数及び手術数で定められてい

る受入基準から下記のようになり、その各施設の受入可能専攻医数を基に群全体の受入数を各年次 9 名、合 36 名と設定しました。

【応募方法】
応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

奈良県立医科大学整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ
http://www.naraseikei.com/

必要書類　：① 申請書（ダウンロード）
② 履歴書（ダウンロード）
③ 医師免許証（コピー）
④ 医師臨床研修修了登録証（コピー）
⑤ 健康診断書

【募集期間】9 月 1 日～11 月 30 日

【問い合わせ先】
〒634-8522　奈良県橿原市四条町 840 番地
奈良県立医科大学　整形外科学教室
担当： 面川　庄平（研修プログラム副統括責任者）
Tel: 0744-29-8873　　Fax: 0744-25-6449
seikei@naramed-u.ac.jp

【病院見学の申し込みについて】
奈良県立医科大学附属病院は随時、病院見学を受け付けております。
下記ページの「病院見学申し込み」よりお申込み下さい。

奈良県立医科大学整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ
http://www.naramed-u.ac.jp/~resident/specialist01_program.htm